

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7年 4月 21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679000127
法人名	社会福祉法人 喜界町社会福祉協議会
事業所名	グループホーム がじゅまる
所在地	鹿児島県大島郡喜界町志戸桶4 5 4 5 番地 (電 話) 55-5077
自己評価作成日	令和 7 年 4月 21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、日中は、玄関の施錠をせずに利用者が自由に外を見たり外に出たりできる体制がある。

2、介護度が重たい利用者でも最後までトイレで排泄できるように、トイレ誘導し、トイレで排泄できるようにしている。

3、見守りを重視して出来るところは自分でやってもらい自立支援に繋げている。

4、市町村や病院との連携が密に取れているので、何でも相談できる関係にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を毎朝の申し送りやケア会議で唱和している。	今後も毎朝の申し送りとケア会議での唱和をして実践できるようスタッフ一人ひとりが自覚するよう努める。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民に声を掛けて自衛消防訓練にも参加してもらった。また集落内の方が通りすがりに手を挙げてくれたり、差し入れをしてくださる。	近所の住宅で転倒している人を発見された方ががじゅまるに助けを求めに来られた。子ども110番の家にも設定されているため何かあれば相談できる場として周知したい。今年度は包括主催のアルツハイマーデーに参加。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	喜界町介護予防事業の一つで時に予防教室の講師を喜界町から委託されている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でヒヤリハットや事故報告を伝えている。	隠すことなく報告している。開かれた施設を維持していきたい。また以前運営推進会議で意見として出た『AEDを設置してもらいたい』という要望も解決した。	AEDを設置していることを区長を通して集落民に周知していただきたい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議・身体拘束等の適正化委員会・入居者判定会に毎回2名以上の出席があり意見交換を行っている。運営だけではなく何でも相談できる関係性にある。	今後も相談できる関係を継続していきたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	早朝夕方の手薄な時間帯（17：30～8：30）は施錠しているが日中帯は常に利用者が自由に外へ出て行けるよう施錠はしていない。3カ月に1回身体拘束等の適正化委員会後にケア会議で事例検討等を行っている。無意識に行っているスピーチロックについては特に研修会を多く実施している。	無意識にスピーチロックを行っている事例があり、適宜研修会や委員会を開催して、自身の振り返りを行う機会を設けている。	スピーチロックゼロを目指す
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまで虐待を疑われる事例は起こっていません。高齢者虐待防止への意識が高い状態なので継続していけるように年1回勉強会を開催し意識付けしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業を利用している利用者が数名いる為、成年後見制度の検討が必要となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者が家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、本人・家族が納得いくまで説明し契約書を交わしている。けいやくごでも電話対応や面会時に契約内容について質問があれば回答している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者が家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議で意見や要望に応えられる場を設けている。貴重なご意見を前向きに検討し、可能な限り実施できるようその都度本部へ報告している。	家族会や運営推進会議で出た要望等に関しては、事務局長に報告をし前向きに検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のケア会議や勉強会等で職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	職員の意見や要望は都度、本部へ報告し、前向きに検討してもらうようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務表作成前に休み希望等を記入してもらい自由に休みが取れる努力はしている。また体調不良・子どもの看病等で急な休みを取れる体制がある。他にも資格取得の支援体制がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間施設内研修計画を立て実施している。今年度は認知症実践者研修に参加したスタッフが主となり、他のスタッフと共に認知症についての知識を深めた。施設内研修に関しては月1回以上は実施して不参加の職員に関しては研修内容を回覧するようにしている。		
		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会鹿児島県支部や鹿児島県GH連絡協議会に加入している。外部研修会や同業者との合同研修会も実施出来ていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここがじゅまるで一緒に生活していくことをしっかり伝えている。また困った事、不安な事は極力解消できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ディサービス送迎時やプライベートで会った時に普段の様子を伝えたり、家族からの要望を聞くようにしている。運営推進委員会には輪番制で出席してもらい、意見交換等出来る環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者については、喜界町職員、地域包括支援センター職員を含めた入居判定会を開催している。利用中に状態を把握し家族・ケアマネ・地域包括支援センターに情報提供し病院受診に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ありがとう・じょうまる・感心・お疲れ様でした等の労いの言葉を意識して使うようにしている。またスタッフ主導にならないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ蔓延防止により、面会制限をかけている。面会制限はキーパーソン1名としている。また島外に居るキーパーソンの方に関しては、来島時に検査等実施して頂き陰性を確認してから来所して頂くなど協力してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防のためドライブを自粛していたが島内のマラソン大会の応援に出掛けたりした。	島内の感染状況を鑑みながら、可能な限り安全対策を徹底した上で面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を探りながらホール内での座る位置を決めている。また孤立することがない様利用者同士が支え合える支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	プライベートであった時に、お互いの近況を報告しあい相談に応じるなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケア会議を開催しセンター方式の様式を活用しみんなで意見を出し合い、介護方法などのすり合わせを行っている。以降の把握が困難場合は家族情報を得て以降の把握に努めている。	本人の情報を一つでも多く収集することで本人の安心した生活の継続に繋げることが出来る。その為にも入居者一人ひとり、年に1回は個別ケア会議を開催している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネより基本情報を得て、常に本人・家族・知人からも情報を得る等している。得た情報は個別ケア会議やケア会議等で情報共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りやケース記録簿・申し送りより前日や当日の状態の把握に努めている。その時々で変化や気づきがあればその都度管理者やスタッフに口頭で報告し申し送りノートに記入している。スタッフ個々が記録や他のスタッフから情報収集を行う姿勢がある。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族、担当スタッフから意見を聞き、介護計画書作成。3カ月に1回のモニタリングで状態変化に応じて介護計画書を変更している。毎月の月次報告書でスタッフが介護計画状況を記入することで現在の状態がケアプランに合っているのか確認してもらっている。	担当スタッフを中心に、他のスタッフも関りから見えてくる情報等を介護計画に組み込んでいる。また1年に1回は担当スタッフを替えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全スタッフに利用者との関りを詳しくケース記録や申し送りノートに記入するようお願いし、スタッフ自身もケース記録や申し送りノートからその日の状態把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所利用者や送迎時間、予定日以外の利用や時間延長サービス・朝食・夕食の提供等希望があれば要望に対応している。入居者に関しては、入院時の洗濯物支援体制、病院受診、自宅訪問、散髪等の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は一人で外出する方に声を掛けてくれたりしていたが現在一人で外出する方がいない。新型コロナ以来地域との交流が無くなっているが、徐々に地域住民との交流を再開していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関をかかりつけ医として毎月1回訪問診療を受診している。常勤の看護師が訪問看護と連携を取り、また夜間でもオンコール体制を整え、急変時にはすぐ駆けつけている。	看護師が訪問看護と連携を密に摂ることで主治医ともスムーズに連絡が取れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全スタッフが利用者の状態の変化に気づき看護師・管理者へ報告している。看護師は訪問看護に報告と相談をし適切な処置・医療を受けている。また利用者の薬の更新や訪問診療の内容を詳しく記録して他スタッフがいつでも閲覧できるようにしている。		
32		○入退院の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院を病院側に依頼し生活リハビリで早期回復に繋げている。また看護師が早期退院に向けて病院と情報交換を行い安全に退院出来ている。入退院時にサマリーを提出しお互いに利用者の状況を把握できるようにしている。入院中に認知症の症状悪化で病院側が診れない状態出れば掃除の受入体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス担当者会議や普段から家族に高齢なので健康状態が急変する可能性があることを話している。また本人家族へは何処で最期を迎えたいかを、介護保険更新のタイミングで伺っておりケアプランに記載している。	令和6年度は家族の希望もあり施設内での看取りを行いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から利用者の様子観察を少しでも様子がおかしい時は看護師や管理者へ報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回近隣住民・消防分署を含めた消防避難訓練の他に毎月自主で火災・津波・地震(昼間・夜間想定)の避難訓練を行っている。常備食としてお米・カレー・飲料水等をストックしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳を守り、声掛けを行っている。トイレでは羞恥心に配慮している。	年に1回はプライバシーに関する職員研修会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいように選択を与え答えやすいようにしている。本人の意思を尊重している。意思疎通が難しい方には一つ一つの行動を声掛けし理解してもらうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちや生活スタイルを尊重して、施設の一日の流れに無理強いしないようにしている。消灯時間も決めずにテレビを観たりお茶をしたり寝たい時に寝て貰っている。通所利用者に関しては家族の意向あり極力昼寝をしないようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	近所の美容室を利用してヘアカットしている。また指先にマニキュアを塗ると喜ぶ利用者さんもいらっしやいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洗い物の手伝いをしてもらったり、食材の皮むき、食材カット等一緒にしてもらっています。また利用者の好みに合わせた料理を提供しています。	食事介助が必要な方に関しては、ただ口に運ぶのではなく、口腔内の状況も見ながら介助し、何を食べようとするのか都度スタッフが耳元で伝えて食事介助を実施しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減・採血検査の値を参考に、食事量の増減を行っている。また必要に応じて栄養補助飲料を利用している方もいらっしゃる。水分に関しては飲みやすい物(ポカリ・イオンゼリー・コーヒー・レモンティ)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて声掛けで出来る人、介助が必要な人、ガーゼで口腔内を拭き取る人を見極めて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車椅子利用者も日中帯はトイレを利用してもらいトイレで排泄する習慣を身に付けて貰っています。	日中は出来る限り布パンツに尿パットを使用してもらい、リハパンやオムツは夜間のみの利用にしている。また体調不良等に合わせてリハパンを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は使わずに乳製品・芋・バナナなどの便が出やすくなる食で食材で対応している。それでも出ない利用者に対しては緩下剤を使用し毎日の体操も欠かさず行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間の取り決めはしていない。ゆっくり入浴できる環境を整えている。また入浴担当スタッフは1人が基本。利用者もスタッフと一対一でゆったりとした入浴をしてもらっている。	一人ひとりの状況に合わせて入浴を実施している。入りたくない方に関しては無理強いはいしない。失禁等でやむを得ない時には納得するまで声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息が取れるように声掛けしたり横になってもらっている。夜間の消灯時間は決めていないので個々が寝たい時に寝てもらう。寝付けない時はスタッフが話相手となっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の副作用についてわかりやすく書き出してくれたりしている。また、誤薬がないように確認作業を重複して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、お膳拭き、食材カットなど利用者が出来ることはお願いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外に出たい方に関しては、スタッフが近所を散歩するなどその都度対応している。また避難訓練の後にドライブに出掛けたり、島内のマラソン大会に応援に出掛けたりしている。	外出希望がある方に関しては、一緒にお墓に行ったり、娘宅に行ったりと、可能な限り個別対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に執着のある方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から電話があれば取り次ぎ、電話に出て欲しいと言われる利用者にはその都度電話をかけて家族と話してもらっている。携帯電話を所持し家族からの電話がある方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はエアコンを利用し、春・秋には窓を開けて自然の空気を味わってもらっている。午前中は東から夕方西から強い光が差し込みので不快にならないよう遮光している。	ホールの壁にタペストリーで四季を感じて貰えるよう演出している。また日中はホールでパズルを楽しんだり、ソファでTV鑑賞するなど、リラックスした生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・ホール・食卓に自由に座れるソファを設置し、それぞれが好きな場所で過ごしている。庭には東屋があり希望する利用者はそこで過ごすこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス・籐椅子・小物入れ・寝具・衣装ケースを持ち込み、自宅での生活スタイルを取り入れて貰っている。	家族の写真や手紙を居室に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の番号やトイレ(便所)、浴室と一目でわかるように張り紙がしてある。また『志戸桶集落』『がじゅまる』『福祉の施設』と目に付く場所に張り紙がしてある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

2 目 標 達 成 計 画

喜界町社会福祉協議会

事業所名 グループホーム がじゅまる

作成日 令和 7年 1月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	366	一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をする	・スピーチロックを無くす ・自分の意見を押し付けない ・見下した言い方をしない	3か月
2		スタッフの高齢化	職員の負担の軽減に努める	・助け合い(チームワーク) ・ボディメカニクス ・福祉用具等の活用(スライディングボードやスライディングシート)	3か月
3					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するもの全てに○印)	
1	サービス評価の事前協議		① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
			② 利用者へのサービス評価について説明した
			③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		○	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて、報告した
			⑤ その他（ ）
2	自己評価の実施	○	① 自己評価を職員全員が実施した
		○	② 前回のサービス評価で挙げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		○	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		○	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意思統一を図った
			⑤ その他（ ）
3	外部評価（訪問調査当日）		① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
			② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
			③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④ その他（ ）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	○	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		○	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			③ 市町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		○	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤ その他（人が集まる会議を自粛しているので書面で報告）
5	サービス評価の活用	○	① 職員全員で次のステップに向けて話し合い、「目標達成プラン」を作成した
			② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		○	③ 「目標達成プラン」を市町村へ説明し、提出した（する）
		○	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
			⑤ その他（人が集まる会議を自粛しているので書面で報告）